土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調　　査　　名　砂防工事全体計画書作成業務

事　業　・　工　事　名

調査目的及び調査対象　砂防　構造物基礎

ボーリング名	Bor No.3-西ノ谷川支川-補助基準点1	調査位置	広島県安芸郡海田町	北緯	34° 21′ 17.2589″
発注機関	広島県西部建設事務所	調査期間	令和2年12月 5日～ 令和2年12月 9日	東経	132° 33′ 27.6601″
調査業者名		主任技師		現場代理人	コア鑑定者 / ボーリング責任者
孔口標高	TP 147.60m	角度	180° 上 90 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南
総削孔長	11.00m	地盤勾配	0° 水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機：東邦D1B-58 / エンジン：ヤンマーTF120V-E / ポンプ：東邦BC-3C

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位／測定月日
1	146.20	1.40		粘土質砂		褐	rd3		上部は暗褐色の耕土 砂は細～中砂を主体とする 粗砂状の小礫を混入する 部分的に砂質粘土状を呈す	
2 3 4	143.60	4.00		玉石・礫混じり砂		褐灰	rd4		L=10～25cmの玉石が混在する 玉石は花崗岩質 玉石間は風化礫を含む礫混じり砂である 径5cm以下の礫を20～40%混入する 砂は中～粗砂を主体とする	
5 6	141.35	6.25		粘土混じり礫混じり砂		褐灰	rd4 rd3		径3cm以下の礫を20～30%混入する 砂は中～粗砂を主体とする 細粒土分を10～20%含有する GL-5.90m付近径10cm程度の玉石が混入する	
7 8 9	138.65	8.95		礫混じり砂		淡褐灰	rd4		径3cm以下の風化礫を混入する 礫は風化し指圧で細礫～土砂状となる 砂は中～粗砂を主体とする 部分的に径5～7cm程度の礫を混入する	
10 11	136.60	11.00		花崗斑岩		淡灰			岩脈、CM級岩盤 L=5～15cmの短柱状～柱状コアで採取する 部分的に亀裂が発達し径5cm以下の岩片～礫状コアとなる 亀裂沿いに細礫～土砂を薄く挟む 亀裂面は暗褐色に変色する	
12 13 14 15 16										

標準貫入試験

深度―N値図（0 10 20 30 40 50 60）

N値	深度(m)	100mm毎の打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
16	1.15	1	2 / 120	13 / 80	16 / 300		
	1.45						
33	2.15	10	15	8	33 / 300		
	2.45						
47	3.15	13	16	18	47 / 300		
	3.45						
46	4.15	12	16	18	46 / 300		
	4.45						
18	5.15	9	5 / 120	4	18 / 320		
	5.47						
50以上	6.15	9	30	11 / 20	50 / 220	220	
	6.37						
50以上	7.05	50 / 80			50 / 80	80	
	7.13						
50以上	8.15	14	21	15 / 70	50 / 270	270	
	8.42						

試料採取 深度(m)	試料番号	採取方法	室内試験	削孔月日
				12/5
				12/7
				12/8